



の力を取り戻し、がんと共に働きやすい職場づくりを勤務先に提案し、マギーズと企業の連携を実現した方もいらっしゃるそうです。

ボランティアの存在も、マギーズに欠かせません。専門職と同じ研修を受けて、訪れた人と話す専門的なボランティアだけでなく、イベント運営や、庭づくりに参加する活動もあるそうです。山崎さんが「マギーズのような活動に、ボランティアで関わってもらうことは難しいですか?」と尋ねると、秋山さんは「マギーズは、こちらがしたいことよりも、相手の力をどう引き出すかということに大切にしている、ボランティアの方にも理解してもらっています」と答えて、こんな話をしてくれました。

——例えば、がんで心身共に落ち込んでいる方がマギーズに来るとき、周りの景色を見る余裕なんてない。でも、マギーズで話をして少しだけ元気になったとき、顔を上げると、ふと庭の花が目に入り「きれいですね」とつぶやく。花束にして差し上げると、来たときよりも元気になって帰られる。ボランティアさんには、自分が楽しんで花を植えたことに加えて、それが人の役に立った、人の力を引き出したという、二重の喜びをもってほしい——。

環境が人の力を引き出していく

美しい庭園と建築がつくる居心地のいい空間は、エンパワメントと並ぶマギーズの柱の一つですが、「どうやったら居心地のいい相談支援の空間がくれるんでしょう?」と視聴者から質問が届きました。秋山さんの答えは、密閉された閉鎖空間ではなく、明かりがとれる窓があることが望ましいが、窓がなければ小さな絵や花を飾るだけでもいいし、机と椅子の配置を斜めにずらしたり、クッションを置くのも効果的。「大切なのは、相談する側だけでなく、相談を受ける側も気持ちが柔らくなること」だそうです。

その言葉にうなずきながら、山崎さんは、19世紀英国のアーツアンドクラフツ運動に触れ、農村風景の絵を窓枠のような額縁に入れて飾ったり、外に咲いていた花を持ち込んで室内空間を豊かにした例を紹介し、「空間自体がもつ力がある。マギーズ東京に来てみると、それが分かるかもしれない」と結びました。

その朝早くマギーズ東京の庭で摘んできたという花束が2人の間に飾られ、背景には、NI-WAが手掛けた「九段 kudan house」の美しい窓越しに見える庭園。お2人のトークが和やかに盛り上がったのも、この空間の力かもしれません。



2019年に東京都千代田区で行ったロイダッツの社会実験。子ども店長が値付けと店番を担当。



子ども店長たちはマギーズに寄付訪問も。



チャリティ、そして 居心地のよい空間について

秋山正子さん×山崎亮さんトークイベント開催

文・編集室／写真・studio-L

がんと共に生きる人が、自分を取り戻し、自分の力を見出すための居場所、マギーズ東京。英国マギーズキャンサーケアリングセンターの日本第一号として、2016年10月に東京都江東区豊洲にオープンしました。がんに影響を受けるすべての人に、安らげる空間と友人のようなサポート、必要に応じて専門的な相談支援や情報を、病院外で、無料で提供するという活動には、「チャリティで運営し、日本に寄付文化を醸成する」という挑戦が含まれていました。その挑戦、今、どうなっていると思いますか？

「チャリティ」と「居心地のいい空間づくり」をテーマに、マギーズ東京共同代表であり訪問看護師の秋山正子さんと、studio-L代表でコミュニティデザイナーの山崎亮さんが語り合うイベントが2020年9月6日（日）に開催され、オンラインでも配信されました。

寄付文化、着実に育っています

秋山さんと山崎さんのトークセッションは、studio-Lが手がけるチャリティショップ「Loiduts」（ロイダッツ）と、株式会社東邦レオによる庭と暮らしの新しい文化を作る「NI-WA」のコラボレーションイベントの最終日に行われました。



マギーズ東京の花壇から摘んできた花を囲んで語り合った秋山さん（左）と山崎さん（右）。

ロイダッツは、寄付された物品を販売し、その利益を社会課題の解決に役立てるチャリティショップです。山崎さんは2012年に建築の観点からマギーズを日本に紹介した縁で、ロイダッツの利益をマギーズ東京に寄付しています。

「ロイダッツのように、マギーズのことを思って運営して、収益を寄付していただけるのはとてもありがたい」と秋山さん。マギーズ東京への寄付はウェブサイトから受け付けていますが、法人など団体からだけでなく、個人の誕生日パーティーでプレゼントの代わりに寄付を募る「バースデイドネーション」や、遺産を寄付する「遺贈寄付」、チャリティコンサートなど、さまざまな方法で寄付が寄せられるそうです。

山崎さんは「おしゃれですね！」と目を丸くしながら「ロイダッツも陳列やアップサイクルなど、アートの力で得たお金を社会の役に立てたいと思ってマギーズ東京と連携しています」と発言されていました。

がん患者自身やボランティア、 マギーズを支えるたくさんの人たち

寄付以外にも、マギーズ東京はさまざまな人に支えられている、と秋山さん。がんを治療しながら働く人も増えていますが、マギーズに来て自分



トーク会場の「九段 kudan house」に設置されたロイダッツのポップアップショップ。